

そらうがく

(No. 48)

26.12.5 発行

現職研修委員会

総合的な学習部編集



国連ESDの十年

総合的な学習部長

杉田 吉男

今年、「国連ESDの十年」の最終年度です。そして、十月から十一月にかけて、名古屋と岡山で「ESDに関するユネスコ世界会議」が行われました。

その活動の一環である「ESDあいち・なごや子ども会議」では、県下の百二十一人の小・中学生が、ESDについて学び、自分たちがこれからのどのように生活していけばよいかを考えていました。

そして、子ども会議のまとめとして、次のような内容が入ったメッセージが発表されました。

「私たちが考える『持続可能な社会』は、未来を考え、お互いを思いやり、人間だけでなくすべての生き物が共に幸せに生きる社会です。(中略)子ども会議の私たちが考えるESDとは、未来を考えて行動することです。みんながESDの主人公となって、今、これから、未来に向かってESDに取り組んでいきます。私たちは本気で、大人のみなさんも、本気になってESDに取り組んでください。ESDは、この世界の未来にとって一番大切なものなのですから。」

私が注目したのは、「大人のみなさんも、本気になって取り組んでください」という部分です。具体的には、「大人もESDに興味を持ってほしい」「知識も経験もある大人がもつと教えてほしい」「大人ももつと未来に目を向けてください」などの提案がありました。ここからは、子どもの目には、「大人がやっていない」と映っていることが分かります。これまで私は、このような提案を見たことも聞いたこともなかったので、衝撃を受けました。大人がまず変わる、その必要性を強く感じた瞬間でした。

また、本校の生徒も、「ESDあいち・なごや子ども会議」や岡山で行われた「ユネスコスクール世界大会」に参加したので、感想を聞いてみました。

「各学校の特徴を活かして、地域のことや未来のことを考えるのは、本当にこれから役立つ、よい活動だと思います。岡山県ではたくさんの方の意見を聞き、その中で新エネルギーに転換していくのにも、その費用をどうするのかなどの問題があることが分かりました。これからの問題についても考えていきたいです。」

「日本では、再生可能エネルギーだけでは、電力をまわすことができないことを知りました。だから、まず一人一人が節電を意識することが大切だと思います。子ども会議で学んだことを家族や友達にも広め、より多くの人と一緒にエコ活動に取り組んでいきます。」

「子ども会議の活動では、学校の総合学習の授業でもやっていたようなことを追究しました。そのとき、新香山中学校での環境学習の取り組みのすごさを改めて感じました。いろいろな学校の子と意見交換をして、新しい考えを持つことができました。」



〈子ども会議でのポスターセッション〉

この感想を読んで、岡崎市で取り組んでいるESDや環境学習の価値を再認識しました。そして、岡崎の子どもたちは、ESDへの取り組みによって確実に成長しています。その中核を担うのは、間違いなく総合学習だと思います。これからは各学校で、地道に実践を積み重ねていきましょう。

研究・研修報告

■授業力・教師力アップセミナー【基礎編】

七月二十一日(木)岡崎市総合学習センターにおいて、授業力・教師力アップセミナー「基礎編」を開催しました。

まず、豊富小学校竹内謙作先生から、「ふるさとを愛し、ふるさとを守り育てる子どもへの育成」という主題で、米作りを教材とした実践を発表していただきました。自分が地域に貢献できると考え行動することの大切さや、自分の将来の生き方を見つめることの必要性など様々な視点に気付かせていただきました。

恒例となった学年別フリートークでは、同じテーマで取り組んでいる学校の実践例や、学年ごとの悩みを話し合ったりすることで、今後の単元計画を見直すきっかけを得ることができました。

最後は、名古屋大学の久野弘幸先生に「育成すべき資質・能力と総合的な学習の授業づくり」について講演をしていただきました。培いたい学力の視点をいただき今後の実践に生かしたいという声が多く聞かれました。

■三河教育研究会 夏季研修会

八月五日(火)に、市民会館・甲山会館において、三河の夏季研修会が開催されました。第二分科会では、藤川小の柵木弓先生による『守り伝えよう 藤川の歴史―むらさき麦プロジェクトを立ち上げよう―』の実践報告がありました。続いて桜井小の先生による『地域や後世へ平和の大切さを語り継ぐ子どもへの育成〜6年 総合的な学習の時間「昭和からのメッセージ」の実践を通して』の実践報告がありました。

藤川小の柵木先生の実践では、地域の方々をゲストティーチャーとして関わってもらいながら、地域のむらさき麦を教材として探究的な学習を展開されました。そして、そこで得た学びを児童自身が進んで発信する姿がよく伝わってきました。「むらさき麦プロジェクト」を始め、商品開発等を行った経験は、児童たちが自身が郷土愛を自然と深める実践となったと思います。

ESD子ども会議参加校の実践紹介

■見つけよう・考えよう・語ろう！ 仲間と共に

男川小学校では、「ESDの視点に立った教科学習の展開」を研究主題とし、相手意識をもって関わり合うこと、思考・判断・表現できる子の育成を目指しています。そのため手段として、合科学習を推進し、「もの・こと・ひと」の「つながり」を意識できるようにしています。学年・学級によって、教科のつながりは様々です。一年生では、国語科と生活科のつながりを意識し、日本語のリズム感や言葉の使い方や学んでいます。三年生では、算数科で学んだ時間と長さの関係を総合学習で地図作りへと広げていく学習。

四年生では、理科の学習を発展させ、月や星と地球の関わりを目を向け、その奥深さや神秘性を学ぶ学習を行っています。

本来の教科内容では学びきれないことを追究していく中で、子供たちは友達と関わり合いながら、思考・判断・表現の力を伸ばしています。他との「つながり」に気付くことを大切に、共に未来へと向かっていく子供たちの育成を目指しています。

(男川小学校 増崎亜沙美)

■ホタルから学ぶ命の大切さ

美合小学校では、長年にわたって校内のホタル飼育舎でゲンジボタル(学区の人は地域の名前を取って生田ボタルと呼んでいます)の飼育を行っています。飼育舎の中には、たくさんのトレーが並び、孵化から一センチメートルぐらいになるまで、幼虫の世話が続いています。ホタルの幼虫は自分の体と同じ大きさのカワナナしか食べません。したがって、孵化したばかりの幼虫は体長が一ミリメートルほどしかないのです、小さいカワナナを探

体育館に設置された移動プラネタリウムの中で、星空を見上げる4年生



して与えるのが大変です。今年も三千匹近い幼虫が飼育舎で誕生し、二千匹ほどを九月の放流式で山綱川に放流しました。

放流後、飼育舎に残っている幼虫はホタル飼育部員だけでなく、四年生児童全員で育てます。マイホタル活動と名付けられたこの活動を通して、美合の宝であるホタルの保護活動に参加するとともに、ホタルのすめる環境作りに向けた活動も大切であることを学びます。さらに、教室に置かれた各自の水槽の中で成長していく幼虫の飼育と観察を続けながら、命の大切さについても学びます。子供たちがホタルから多くのことを学び、そして故郷を大切にすることを学んでいます。

(美合小学校 吉見孝仁)

■地域振興から地球の未来へ

常磐南小は全校児童六十六名の小規模校です。これまで本学区を持続可能な地域にしようとしてESDに取り組んできました。そんな本校にユネスコ世界会議支援実行委員会からESD子ども会議への参加のお誘いがありました。常南小が行ってきたESDは地域振興がメインテーマです。しかし、本来ESDとは、環境問題・人権学習・生物多様性・国際理解などを扱うもつと幅の広いものです。子供たちの視野を広げる良いチャンスだと捉え、子ども会議への参加を決めました。

実際に参加してみると、本校の子供たちは、参加者の多さに圧倒され、消極的な言動が目立ちました。けれども、アフリカ諸国で活動をした方の体験報告を聞

飼育舎でのゲンジボタルの飼育活動



ESD子ども会議グループ討議の様子



いたり、異国の給食を食べたりするなど貴重な経験を積む中で、未来の地球の姿を考えるようになってきました。さらに、他校の子供たちと、世界が抱える問題についてのグループ討議を重ねることで、未来に対する責任性を持つようになりました。

いっしょに本校の児童は、子ども会議の一つのグループのサブリリーダーとして活躍するようになりました。地域振興から、地球の未来へ。子ども会議を通して、子供たちの視野は大きく広がってきています。

(常磐南小学校 坂元千城)

■考えよう 六ツ美中部の河川環境

平成二十三年度から、「明るい未来をひらく六ツ美中部の子の育成」をテーマに全校でESDの学習、活動に取り組んでいます。五年生は学区の河川環境について、学習し具体的な行動に取り組みました。

初めに、学区の河川に棲んでいる生き物を調べました。メダカやタニシ、ドジョウ、ナマズなどをとることができました。川の上から見たときに、魚がいることはすぐに分かるくらい水は透明だったので、最初はきれいな水だと思いました。

しかし、パックテストを使って水質を調べてみると、少し汚れていることが分かりました。さらに指標生物を調べてみると、きれいな水に棲む指標生物を見つけることができず、ヒルやミズムシなど汚れた水にも棲むことができる生物を多数見つけることができました。

学区の河川美化活動



学級で自分たちで、できることについて話し合いをし学区の川の土手、水の中のごみを拾いました。缶やビン、ごみ、タバコの吸殻などのごみを片付けました。

今後、この活動を地域に伝え、さらに広げたいと思います。

(六ツ美中部小学校 渡辺修一郎)